

令和3年度 学校評価書 (計画段階(実施段階))

福岡県立三池高等学校

自己評価

学校運営計画(4月)		評価(総合)
学校運営方針	県立高校として福岡県の目指す教育目標に沿いながら、校訓である「進取、至誠、自治」の精神を涵養する教育を行う。	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
感染症防止対策を講じながら、可能な限り教育活動を実施することができた。令和3年度は、さらに主体性を発揮させる教育活動や魅力ある授業をととして、「学びに向かう力」を育成する。また、多面的な学びの場の提供、ICTの活用などをおとして、普通科高校としての教育力向上に努める。併せて、本校の魅力を広く発信し、地域の信頼を高める。	確かな学力の育成	学習指導要領の趣旨に基づいた授業を行い、自ら学びに向かう力を醸成し確かな学力の充実を図る。また、学習指導要領の改訂を踏まえ、観点別評価を充実させ、学習の目標・指導・評価の一体化を目指す。
	キャリア教育の充実	キャリア教育の推進を図り、自己の意思と責任で進路を選択させるとともに、その実現を目指して自ら課題を設定し、主体的に解決しようとする力を身に付けさせる。
	生徒会活動の活性化、安全に対する意識の向上	自己選択や自己決定の場や機会を与え、自発的、自主的、自律的に行動させ、主体的に取り組もうとする資質を育み、自己指導能力を育成する。
	地域・同窓生との連携	本校の教育活動の魅力や成果を地域及び同窓生に発信し、信頼と期待を高める。

B

学校関係者評価

評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや適切である
	D : 不適切である

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
			評価	コメント	
教務班	□学力の向上	□自立した生活習慣の確立 □学習指導の充実 □主体的に学習に取り組む態度の育成	□三高生らしい生活習慣とともに、自ら考え行動できる力を身に付けさせるため、各教科との連携を図る。 □学年部と連携し、自ら心と体の健康に留意できる態度を身に付けさせる。 □それぞれの学年に応じた学習習慣を確実に位置付けさせるため、学習状況のデータ収集と分析を図る。 □見通しをもって生徒が授業に臨めるよう、3年間を見通した指導計画や評価の観点を工夫する。 □学ぶ喜びを感じることでできる授業ができるよう、ICTの活用や言語活動の充実を図る。 □各教科で「思考・判断・表現」の観点に係る問題を出题するようにする。 □キャリア育成部との連携を図り、総合的な探究の時間を充実させる。 □学習の目的とその意義に気付かせ、学習習慣の定着を図る。 □家庭学習時間調査により、家庭学習の大切さを理解させ、予習、授業、復習の定着を図る。 □定期考査の結果などを活用し、進路実現を見通した学力の向上と家庭学習時間の増加を図る。	A B A	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習に対する姿勢を育成するため、学習することの意義に気付かせる指導を、各教科、各分掌と連携して取り組む。 各教育活動において、創意工夫されたICTを活用した指導が進んでおり、更なる発展を目指す。加えて、授業規律及び学習習慣の確立を目指す。 新教育課程及び観点別評価の実施に向け、職員間の共通認識を深め、指導目標の完全なる達成を図る。
	□三池高校の活性化	□生徒の学習意欲の喚起と新たな教育課程編成	□学習指導要領や大学入試共通テストに対応できる教育課程の編成を実現する。	B	

A

総務班	□学校行事	□迅速な準備と正確な記録、円滑な運営(入学式、卒業式、始・終業式、全校朝礼等)	□各行事の計画を2ヶ月前から立て、各部・各班や学年との連絡調整を緊密に行う。 □各行事の業務分担割については、業務内容や担当分掌に鑑みて適材適所で配置するとともに、実施要項を1ヶ月前に提示し、計画的かつ円滑に運営できるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 感染症状況も小康状態となり、昨年度に比べ少しずつ従来の教育活動が実践できつつあると感じている。昨年度中止となった進路相談事業が行われ、オープンスクールも1回目は延期を余儀なくされたが、感染症対策を徹底しながら2回実施することができた。昨年度延期となった芸術鑑賞も実施できた。今後、感染症により急な変更等が生じる可能性は高いが、状況を的確に把握しつつ他分掌と協力し円滑な企画運営を行う。 SNSを活用した広報活動や中学校への学校説明会等、昨年以上に活発な実践ができてきている。しかし、様々な情報を「発信する」ことから「収集すること」への変革は実践できていない。次年度は、「収集する」ための方策を検討し、実施する。
	□広報活動の充実	□令和4年度入試の志願者倍率、1.2倍超を目指す。	□第10学区並びに熊本県北部在住の中学生に対し柔軟にPR活動を行うとともに、小学校・中学校との交流活動の様子を地域社会に発信する。 □広報紙及び学校案内は、生徒等の意見やアイデアを取り入れるなどして、インパクトがあり読みやすいものを作成し、中学生や地域の方々に向けて発信する。また、正門・国道側掲示板やホームページの活用により、生徒の諸活動の様子を効果的かつ好時機に発信する。 □中学生対象行事や中学校訪問及び高校説明会を組織的に行い、生徒会や他分掌との連携を図ることによって、本校の魅力や生徒の主体的な諸活動を効果的に伝える。 □オープンスクールについては、年度当初に年間計画を立てるとともに実施内容に関して議論を深めることで、生徒の様子や本校の教育活動を中学生と保護者に分かりやすく効果的に伝える。	B A	
	□庶務関係	□迅速な準備と正確な記録、円滑な運営(諸会議の準備、巡視割等)	□計画、準備を迅速かつ正確に行い、係員間の調整・連絡・協議を綿密にして実行する。 □実施後の記録や文書(データ)の管理を確実にし、業務のスリム化に努める。	A	
	□関係機関との連携	□各種会議の円滑な運営(父母教師会関係、同窓会関係)	□父母教師会の諸行事が円滑に進むよう補佐する。 □同窓会事務係との連携を図るとともに連絡を密にし、諸会議等が円滑に進むよう補佐する。	A	

A

項目ごとの評価

学校関係者評価委員会からの意見

・近隣の小学校及び中学校でもICTを活用した指導が着実に進んでおり、今後はタブレットを使い慣れた生徒が入学してくるので、更なるICT活用と指導の工夫を図りたい。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、計画どおりの教育活動が展開できなかったと思われるが、対策を講じながら、生徒たちに充実感を感じられるような工夫が各教育活動に見受けられた。

項目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
進路指導班	□進路研究・進路学習	□課題解決能力、表現力の育成	□各学年の担当と学年との連携を密にした企画運営 □学部・学科研究による進路意識の高揚 □小論文指導や探究活動とおとした自己表現力の養成 □「志講演会」及び「出前講座」「リモート講義」をおとしたグローバルな視野を持った人材育成 □学事部、1・2学年と連携した「総合的な探究の時間」の企画	A	・他分掌とも連携し、学力向上を目指した取組を模索する。 ・入試制度の変化に伴い、活動履歴が重視されるようになってきている。校内外の活動に積極的に参加させるように、情報提供を行う。また、キャリアパスポートに確実に記録させるように指導する。 ・進学に係る書類で細かい活動記録の記入が求められてきているため、「資格取得用紙」をキャリア育成部主導で実施する。 ・入試システムが複雑になり、生徒も保護者もその理解が難しい状況が増えてきている。ホームルーム活動や保護者研修会での複数回の説明を検討したい。特に、保護者に対しては、オンデマンドの研修形態も実施する。	B	・大学の入試システムが年々複雑になっているため、より詳細な情報を生徒及び保護者に伝達する機会が必要となる。第1学年時から系統的な指導を図りたい。
	□進学・就職指導	□個に応じた第1志望進路の決定 ・国立大学合格40名以上 ・公務員(就職)希望者合格率80%以上 ・西南学院大学合格のべ20名以上 ・福岡大学合格のべ60名以上 □面談及び個別指導の充実 □新しい入試制度への対応	□復習考査の充実(長期休業中の学習の復習として位置付け、効果的な運営を行う。) □小論文・面接指導の充実(職員が連携した指導を行えるよう状況を整える。) □受験校・就職先の綿密な検討(入試制度を理解させ、有効な受験校選択・出願を促す。年間2回の受験校検討会を実施する。就職希望生徒の個別対応をする。) □進路のしおり「蒼穹」の内容刷新(キャリアパスポート、ポートフォリオ記入用紙等の活用を行い、各学年と連携して計画的に記録させる。)	B B			
	□模擬試験	□1, 2年生は進研模試総合(国数英)平均偏差値50以上 □3年生は進研模試の各教科・科目の偏差値50以上 □学力の2極化の解消及びその対応	□朝夕課外・土曜チャレンジセミナーの充実(各教科・学年と連携し内容の検討を行い、柔軟に対応していく。) □長期休業中の補習の充実 □模試分析会の充実(1・2学年は各模試後に毎回分析会を実施。3学年は必ず教科で分析会を実施。学年・教科で課題解決策を考え、その内容を習熟度別に生徒へ提示する。) □ハイレベル模試、個別大模試の推奨	C			
研修・図書班	□図書(読書)の推進	□生徒の読書量を増加させる。 □図書室の利用を促進する。 □ブックワゴンの活用を再開・促進する。 □図書委員合同研修会に積極的に参加する。	□他分掌や学年、教科と連携し、生徒の読書に親しむ態度を育成する。 □図書委員会主体で発表会や読書活動の推進等を行う。 □図書委員合同研修会での主体的活動を通して生徒の自主性を育成する。 □図書委員合同研修会で得た成果を、ライブラリーニュース等を通じて全校生徒に還元する。	A	・外部の研修会での成果を全職員で共有するシステムを確立し、より多くの教員の資質・能力の向上につなげられる体制を構築する。 ・今年度ICT環境が大幅に進んだことにより、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」に向けた研修会が中心になった。次年度は「いじめ問題」など生徒指導に関する研修会を実施する。 ・人権教育の更なる充実を図るべく、実施回数や内容に関し改定する。	A	・継続して研修等を実施していただきたい。
	□職員の資質・能力の向上	□教科指導力の向上、特に新学習指導要領に基づいた思考力、判断力、表現力を育むための授業改善に努める。 □多様化する生徒や時代に求められる指導力向上のための研修会の推進を図る。	□教育センター等の外部での新たな学びに関する授業研究やICT教育、人権教育等の研修会への積極的に参加を呼びかける。 □外部の研修会に参加して得た成果を各教科・分掌等で共有する。 □授業研究月間(10月)を設け、各教科代表者の研究授業及び相互参観授業を行う。 □授業アンケートを実施することで、生徒の実態や各教科の課題を把握・認識し、授業改善を図る。 □各教科の研究授業指導案を年度共通フォルダ内で管理し、先生方が利用しやすいように工夫する。 □「主体的・対話的で深い学び」や「いじめ問題」に関する研修会を実施する。	B A			
	□人権教育の充実	□全教科・領域で、人権教育に関する目標を年間計画に盛り込み教育活動を行う。 □各学年2回の人権教育の充実を図る。	□全教科・領域における人権教育に関する情報を収集し、実態に応じた指導内容を検討する。 □学年事前検討会を授業実施日の2週間程度前に設定し、十分な準備時間を確保する。 □1年次第1回は「いじめ」に関する題材を扱う。また、1年次第2回は教材・資料として「人権・同和パンフレット」を活用する。	A			
	□教育実習の企画・運営	□教育実習をおとして、実習生の人間形成と教師としての資質向上を目指す。同時に、指導担当者の指導力の向上の機会とする。	□大学との連絡をホームページ等を活用し円滑に行う。 □連絡会(朝・夕)をおとして、学ぶ意欲を持続させるとともに、実習生としての自覚と責任ある行動を喚起する。 □学校行事等、教育の意義や価値を体験できる場を積極的に提供する。 □教育実習生への指導・連絡の内容について、職員が把握できるよう連絡方法を工夫する。	A			
生徒指導班	□生徒会活動の充実	□生徒会執行部・各種委員会の年間計画を立てさせ、主体的・体系的に運営させる。 □既存の学校行事(大運動会・三高祭・校内体育大会等)の成功及び学校活性化のための新たな取り組みを行う。	□学校行事等に年間の見通しを持ち、ビジョンを明確にして生徒会執行部のリーダーシップのもと、感染症対策を徹底し、企画・立案・実行できるように指導する。 □生徒の主体的活動を促すことを生徒会の主な課題と位置付け、生徒会執行部と教員との連携を密にし、生徒が主体的に学校行事等の運営を行うシステムを確立する。	A	・大運動会が中止となり、代替の行事として伝承発表会を実施した。生徒会執行部や3年生のリーダー生徒を中心に、主体的・体系的に実施できた。大運動会の伝統を来年度以降に伝えることができたと感じている。三高祭も生徒達が主体的に活動し、成功することができた。 ・交通事故は10件発生し、携帯電話に関する規定違反は2件であった。幸い、入院等の大きな交通事故には至らなかったが、今後も意識向上を図る指導を継続していく。 ・部活動加入率は、89.5%(運動部60%・文化部29.5%)で、全国大会出場者は、4名であった。来年度以降も部活動加入率の向上を目指し、学校活性化の一翼を担う。	A	・大運動会の代替行事により、生徒の意欲が高められたように感じる。 ・自転車による事故については、加害者にもなり得る事案であるので、指導の徹底を図りたい。
	□基本的生活習慣の確立と問題行動等の未然防止	□特別指導等の問題行動を年間で0件を目指す。 □携帯電話等に関する規定違反件数5件以下を目指す。 □挨拶の励行・時間の厳守・端正な服装を生徒に身に付けさせる。服装頭髪等違反生徒を5%以下とする。	□積極的な生徒指導を全職員で行い、問題行動を未然に防ぐ環境づくりを行う。 □情報の授業との連携を図り、SNSの正しい使用方法等を学ばせる。 □各学年において、定期的に正装点検を行い生徒の規範意識の高揚を図る。 □生徒会執行部・各種委員会等を中心に挨拶の指導を徹底し、三高生としてふさわしい行動が取れる生徒を育成する。	A A			
	□安全教育	□年間の交通事故・事件件数を10件以下を目指す。特にバイク通学者の事故については0件を目指す。	□集会やHR等で交通ルール遵守、命の大切さを訴え、自他に思いやりが持てる生徒を育成する。 □バイク通学者に対して、保護者と共にバイク説明会を実施する。	B			
	□部活動の活性化	□部活動加入率を運動部で55%、文化部で25%以上にし、学校生活全般で模範となる生徒を育成する。	□部活動紹介や体験入部を充実させることで新入生の部活動加入促進を図る。 □生徒数に応じた、部活動数の検討を行う。	A			

項目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
保健班	□生徒の健康維持増進	□疾病、感染症(COVID-19)予防に努める。 □自己の健康管理を主体的に行う力を身に付ける。 □主体的な生徒保健委員会の活動を目指し、自己指導能力を育てる。	□感染再拡大を防ぐために、学校内外における基本的な感染症対策を徹底する。(部活動、各行事でのコロナ予防対策) □保健班の会議、研修、協議を随時行い、他分掌と連携を図りながらチェック体制を整えていく。 □各検診別未治療者に関して治療を促し、家庭と連携を取りながら事後処置(検査・治療)を目指す。 □生徒自らが課題に対し啓発活動が円滑に行えるよう支援を行う。(保健だよりの発行、放送、献血実施)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染防止に向けて、引き続き感染対策の徹底、迅速かつ適切な判断を行っていく。 ①年間を通し行事ごとの感染防止対策を状況に応じて計画 ②適切な環境整備 ・コロナ禍、校舍改築工事を考慮した保健関係行事の日程、方法等を検討していく。 (2、3年生対象の献血実施) ・個に応じた指導、合理的配慮に向けて ①教科会議、個別の教育支援計画、指導計画の作成、ケース会議等を積極的に実施 ②気づき共有シートの活用に向けた改善 ・いじめや教育相談、危機管理に関する職員研修の充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に対して、様々な対策を講じられ、教育活動の継続に尽力された。
	□安全教育と安全管理の充実	□安全管理体制の整備を行い、全職員の共通理解を図る。 □生徒の安全対応能力を育むとともに職員の危機管理能力、資質の向上を図る。	□校舍改築工事に伴い、危険箇所改善や予防に向け、適宜、職場安全点検を行い、他分掌と連携を図る。 □学校保健計画、学校安全計画の見直しを行う。 □地域の関係機関と連携した救急救命講習会、防災避難訓練を行い、内容を充実させる。	A			
	□環境整備と環境美化	□掃除の徹底、ゴミの分別・減量化を図る。 □主体的な美化委員会の活動を目指して、奉仕の精神や愛校心を育てる。	□月一大掃除の内容を充実させ、行事に連動して検討・計画する。 □美化委員会を中心にゴミの持ち回りの徹底や減量化に向けた活動の支援を行う。 (学期ごとのゴミの分別等の呼びかけ活動、清掃強化週間の実施、掃除道具の点検・充足化)	B			
	□いじめの未然防止と早期発見	□迅速かつ適切で、丁寧な対応を組織的に取り組む。 □生徒の自己有用感の向上に努める。	□いじめ問題対策委員会を定期的に行うことで、情報を共有し、その解決策について検討する。 □必要に応じて、第三者の指導、助言を仰ぐ。 □いじめの未然防止に向けて、職員研修、道徳教育、人権教育、啓発活動の充実を図る。	A			
	□教育相談の充実	□早期発見、早期対応に努める。 □安心・安全な学校生活を送るための環境整備を行う。	□担任・学年・教科担当・保健室との連携を図りながら迅速な対応を行う。また、関係医療機関との連携を密にする。 □特別支援教育コーディネーターを中心に、各学年の教育相談担当者と連携を図りながら、生徒の把握に努め、全職員で情報を共有していく。(生徒気付きファイルの活用)の徹底、実施)	B			
第一学年	□主体的な態度の育成	□高校生活のリズムを早く掴ませ、慣れさせる。 □主体的な態度・行動を身に付けさせる。 □規範意識を持たせ、安心な場を作り、充実した生活を送らせる。	□遅刻や欠席については、担任を中心に家庭と連携を密接に取りながら指導していく。 □こちらから答えを提示するのではなく、考えさせ、また選択させながら果敢に挑戦する姿勢を身に付けさせ、達成感や充実感を味わわせる。 □教員が率先垂範し、社会生活・学校生活の中で求められる挨拶や時間厳守を身に付けさせる。 □端正な服装・頭髪を心がけさせる。また、清掃時間を充実させ、場を清める心を育成させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入学してすぐに春季宿泊研修を実施できたことが、その後の学校生活を送るための規範意識の育成及び基本的な生活習慣の確立につながった。 ・学習面に関しては、学習時間が140分程度と少なく、目標に達することができていない。課題等については、確実に提出している状況を考えると、現状としては与えられたものをやり遂げる努力はできている。 ・次年度については、「逆算して行動すること」を目標に、学習面でも生活面でも、自分で考えて動くことを主眼として指導していく、主体的な行動の育成を目指していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の学習時間が140分は高校生としては少ないということであるので、中学校時代に少なくとも120分は学習する習慣を身に付けさせたい。 ・「豊かな人間性の形成」については、コロナ禍において、教育活動を計画どおり実施できなかったが、機会を捉えて指導いただいている様子が窺えた。
	□基礎学力の定着	□主体的な学習サイクルの確立を身に付けさせる。 □平日の平均学習時間120分以上、休日の平均学習時間200分以上を目指す。 □模試で平均偏差値50以上を目指す。	□新入試で必要とされる思考力・判断力・表現力の育成のための、主体的な学習の基盤となる基礎学力定着を図る。 □総合的な探究の時間やホームルーム活動を通して、多様な考え方や価値観に触れ、自分自身を見つめさせ、進路について考える機会とする。 □成績不振者については、考査前補講や個別指導を行いながら基礎学力の定着を図る。成績上位者については講座を実施し、難関校受験を意識した指導を行う。 □課題については、分量や提出日を各教科内で調整する。 □「生活の記録」から見えた実態を把握し、学年で共有しながら適宜指導・助言を行う。	B			
	□豊かな人間性の形成	□将来の在り方について真剣に考えさせる。 □何事にも挑戦する逞しさと思いやりの心を身に付けさせる。 □社会で必要とされるコミュニケーション能力や道徳性を身に付けさせる。	□総合的な探究の時間やホームルーム活動をととして、自己を知り、高い志を持たせる。 □積極的に学校行事や部活動に参加し、三高生としての誇りと自覚を持たせる。 □校外での研修や地方公共団体でのボランティア活動、発表会等に取り組ませ、コミュニケーション能力の育成と自己啓発を図る。 □人権教育授業を充実させ、周囲への配慮や優しさとは何かを考えさせる機会とする。	B			
第二学年	□生きる力の育成	□自己指導能力の育成を図る。 □何事にも失敗を恐れず、やり通す粘り強さを身に付けさせる。 □心身ともに健康な生徒の育成を目指す。	□授業をはじめ学校生活の全領域で学ぶ意義を理解し、目的意識を持たせることで、安易な遅刻や欠席を防ぐ。 □すべての教育活動において、自己選択・自己決定の場を大切に。 □授業や部活動では、「できる」「克つ」「やり通す」をモットーに指導する。 □全教科・全領域における道徳教育の観点からの働きかけにより、豊かな人間性を育む。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「できる」「克つ」「やり通す」をモットーに目の前のことに、全力で取り組むよう学年集会や、定期の学年通信で生徒に、共通理解を図り、指導してきた。成果としては、安易に遅刻・欠席をしないことや学習習慣の定着に繋がった。 ・次年度に向けて、学習の「量」のみでなく「質」重視への転換、学力下位層のみでなく、上位層への手厚い支援、適切に情報共有をしつつ、自己選択・自己決定を大切にさせるガイダンス機能の充実により、進路実現を図っていく。 ・教員間のみでなく、教師と保護者の信頼関係を土台に、生徒一人一人に対して、適切な指導・支援ができるような保護者を含めた相互補完型の組織体制の構築を図り、生徒の全人的な成長を期していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して指導をお願いしたい。
	□自ら学びに向かう力の醸成と確かな学力の定着	□日々の授業・課外・土曜チャレンジセミナーを大事にしながら、学習サイクルを確立させる。 □平日の平均学習時間120分以上、休日の平均学習時間240分以上を目指す。 □模試で平均偏差値50以上を目指す。	□課外→授業→部活動→家庭学習のサイクルを確立させられるよう、面談や生活の記録などを手立てに集団や個に応じた指導を行う。 □総合的な探究の時間やホームルーム活動では、社会的自立に向けた望ましい職業観・勤労観の涵養をととして、自己の在り方生き方を見つめさせることで進路意識の向上につなぐ。 □模擬試験分析においては、資料の数字(偏差値、学習時間など)の推移・度数分布などを根拠に指導の改善を図る。 □進路情報においては、ガイダンスの充実により受験を見据えた指導を行う。	A			
	□学年教員団のつながりを土台とした生徒指導の充実	□生徒情報を共有し、指導の充実を図る。 □学習活動における目的・目標を学年団で共有し、積極的な生徒指導の充実を目指す。 □種々の問題・課題に柔軟に対応できる組織づくりを目指す。	□定期の学年会はもとより、日頃の教員間のコミュニケーションをととして、生徒情報の共有を図る。 □生徒指導上の諸問題には、管理職への報告・教員間の連絡・相談を基本に組織で協力して解決に臨む。 □平素から保護者との連携を密にし、信頼関係の構築を心掛ける。 □アカウンタビリティ(説明責任)が果たせるよう、指導の手順や根拠を大切に。	A			

項 目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題
第三学年	□希望進路の実現	<input type="checkbox"/> 家庭学習の充実(平日150分/日・休日300分/日) <input type="checkbox"/> 74回生全員の卒業認定 <input type="checkbox"/> 読解力・表現力・リスニング力の育成 <input type="checkbox"/> 進研模試の偏差値が各教科50以上 <input type="checkbox"/> 国公立大学合格者が40名以上 <input type="checkbox"/> 西南学院大学合格者が20名以上 <input type="checkbox"/> 福岡大学合格者が60名以上 <input type="checkbox"/> 公務員試験合格・就職内定が80%以上	<input type="checkbox"/> 全員に必要な英語を中心として理系は理科、文系は地理歴史公民に対する意識をより高く持たせ、「武器」となる教科を作らせる。 <input type="checkbox"/> 放課後や週末の学校での自学を奨励するとともに、勉強会や講座を企画・実施する。 <input type="checkbox"/> 考査前の補講・個別指導を充実させる。 <input type="checkbox"/> 最新の情報を基に現状を知り、対策を講じる。また、模試分析会の結果を学年および教科担当者で共有し、指導に役立てる。 <input type="checkbox"/> 進路実現のために、一般選抜だけでなく、総合型選抜・学校推薦型選抜など、あらゆる受験機会を活用させる。 <input type="checkbox"/> 小論文・面接指導については、全職員に協力を依頼して実施する。 <input type="checkbox"/> 年間を通して二者面談・個別指導をこまめに行い、希望進路の確認や指導・助言、精神面のケアに努める。 <input type="checkbox"/> 英検・リスニング・面接対策また漢検対策指導等をを行い、学年として2級取得を目指す。 <input type="checkbox"/> 朝読書の時間を国語及び英語の単語やリスニング等に有効活用して、読解力・語彙力・リスニングの力を向上させる。	C	・家庭学習時間の定着が求められる。着実に学習時間を伸ばしてきた。しかし、入学時、基本的な学習習慣を定着させるため、入学当初の学習指導を工夫をしなければならない。短時間の学習で、授業内容に対応できると思っており、意識の変革を行っていかなければならない。 ・入試問題を解くためには読解力の向上が重要になっており、1年次から国語、英語、数学の教科横断的な連携が必要である。 ・コロナ禍で例年通りの教育活動が展開できず、学校行事の大きな変更があった中で、生徒は臨機応変に対応することができた。3年間の学校生活をとおして心身の大きな成長が見られた。様々なことへ体験させることの重要性についての共通認識を深めて指導に当たる。
	□最上級生としての自覚	<input type="checkbox"/> 将来の在り方・生き方についての真剣な考察 <input type="checkbox"/> 目標実現のための主体的・計画的な取り組み <input type="checkbox"/> 部活動・大運動会・受験を通じての成長	<input type="checkbox"/> 安易な欠席・遅刻・早退をしないように指導し、皆動を目指す。 <input type="checkbox"/> 生徒が自己を知り、志を高く持ち、その実現に向けて努力するように、授業・ホームルーム等、あらゆる時間を利用して指導する。 <input type="checkbox"/> 2年ぶりに実施される学校行事を必ず成功させる。さらに、部活動等に積極的に取り組ませ、与えられた責任・役割を全うさせる。 <input type="checkbox"/> 状況に応じて的確なアドバイスをしながらも、生徒自身の力で乗り越えさせるようにする。	B	
	□豊かな人格の形成	<input type="checkbox"/> 規範意識と社会性の涵養 <input type="checkbox"/> 他者を思いやる心の育成 <input type="checkbox"/> 自己管理の徹底	<input type="checkbox"/> 過年度に引き続き「時を守り、場を清め、礼を正す」を実践させる。 <input type="checkbox"/> ルールやマナーを守らせ、安心安全な環境作り貢献させる。また、交通ルールの遵守は絶対であることを強調し、自分の命・他人の命を守らせる。 <input type="checkbox"/> いじめアンケートや学校生活アンケートで状況把握に努め、早期に対応し、問題の未然防止に努める。 <input type="checkbox"/> 問題が生じた場合は、家庭との連携を密に行うと共に、管理職及び関係職員に速やかに情報伝達を行い、対策を講じる。 <input type="checkbox"/> 生徒を指導する際は、詳細な記録を残すようにする。	B	
事務部	□予算執行	□限られた予算の範囲内で効果的な執行	<input type="checkbox"/> 学校全体で節電・節水等光熱水費を含め経費節減に取り組む。 <input type="checkbox"/> 年間の運営計画を見極めながら効率的な予算執行を行う。	B	・図書館・特別教室棟改築工事の工期が令和4年1月から令和5年2月まで予定されているため、関係職員との連絡調整を図り学校運営にできる限り支障をきたさないよう行い、引き続き生徒の安全管理を徹底する。
	□施設の管理	□大規模改築事業にかかる職員間の情報の共有及び安全管理	<input type="checkbox"/> 解体・建築工事等実施する中で職員間の連携を密にする。 <input type="checkbox"/> 生徒の安全管理、環境整備に取り組む。	B	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	・「希望進路の実現」については、目標に対して1項目でも達していない場合には、厳しい評価をいただいたようである。
A	・次年度以降も生徒の安全に配慮しながら、大規模改築事業を進めていただきたい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

これからの時代に求められる資質・能力が身に付くように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を日々行い、教師及び生徒がICTを活用しながら「個別最適な学び」や「協働的な学び」等を通じて「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を醸成する。また、観点別評価を充実させ、指導と評価の一体化を目指す。また、指導の要となる特別活動や教育活動全体を通じて、ガイダンスとカウンセリングの機能を充実させながら、生徒一人一人の可能性を最大限に発揮できるように計画的にキャリア教育を実施する。さらに、生徒の安全を確保しながら大規模改築事業を運営する。

評価項目以外のものに関する意見
+